



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 岡野友宏
編集責任者 広報委員長 高橋浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www10.showa-u.ac.jp/~denthp/index.html>

サッカーワールドカップを通じマスメディアの怖さを知る —医学情報番組は本当?— 口腔リハビリテーション科 科長 高橋浩二

サッカーワールドカップは日本中が盛り上がりましたね。決勝リーグ進出が決まるデンマーク戦では午前3時からの試合にもかかわらず関東地方ではテレビの平均視聴率は30%を越え、瞬間最高視聴率は46.2%に達し、決勝リーグのパラグアイ戦に至っては、放送したテレビ局は開局60年の歴史の中での最高視聴率を記録し、瞬間値では64.9%にまで達したそうです。その後も現在に至るまでマスメディアを通じ、岡田監督やイレブンに対する賛辞を見聞きます。そんな折、とある場所で過去の週刊誌数誌をパラパラと読む機会がありました。壮行試合の日韓戦に敗れた後に発行されたそれらの週刊誌はどれも岡田監督やイレブンへの応援や励ましの言葉は皆無で、バッシング、糾弾ともいえる酷評が凄まじく、記事を読みながら、まさに勝てば官軍、負ければ賊軍という現実、マスメディア恐るべしと、改めて強く実感させられました。

話は変わりますが、巷にはあらゆる情報が有り余っています。既存メディアといわれるテレビやラジオ、新聞、週刊誌などのマスメディアに加え、インターネットから多くの情報を簡単に得ることができます。情報過多、情報メディアの功罪とかが叫ばれるようになってからだいぶ時を経た気がしますが、情報の氾濫は日を追う毎にますますエスカレートしているように思われます。

医学に関する情報についても同様です。正しい情報が多い分には良いのですが、なかには玉石混淆、理非曲直といった情報も散見されます。インターネットを通してありとあらゆる医学情報にアクセスできますが、本当に必要な情報を見つけるのは至難の技です。またこちらから積極的に探さ

なくてもテレビやラジオの医学情報番組などマスメディアを通じて医療に関する様々な情報が飛び込んできます。それらの情報は専門医が感心するようなわかりやすく適切なものも数多くありますが、誤解されかねないものもあります。



私自身も取材を受けたある番組で専門である嚥下障害について解説したのですが、高齢になると必ず危険な嚥下障害を持つかのように編集され、あわてて番組制作者に訂正を求めたこともあります。

マスメディア側で番組を製作する人も視聴率が高ければ官軍、低ければ賊軍の立場にあるはずですから、曲解や誇張が起こることも時にはあるかと思います。また番組の放送時間も制限されているので、解説が不十分なこともあるでしょう。

最近も睡眠時無呼吸症候群は放っておくと命を落とす病気だと紹介する番組がありましたが、大きないびきや睡眠中息が止まる人は寿命がかなり短くなるという内容で、怖がらせることを意図するような表現が気になりました。睡眠時無呼吸症候群についてご心配な方はどうぞ口腔リハビリテーション科あるいは総合内科にお問い合わせ下さい。正しい情報を丁寧にご説明致します。

さて、幸いなことに昭和大学歯科病院には優秀な専門医が数多くいます。皆様どうぞ遠慮なさらずお口や歯に関する疑問を専門医にお聞きになってはいかがでしょうか。



口腔リハビリテーション科 紹介

外来患者様について

口腔リハビリテーション科は、食べる・飲む機能の障害(摂食・嚥下障害)、ことばの障害(発音障害)、いびきや夜間の無呼吸(閉塞性睡眠時無呼吸低呼吸症候群)、口腔筋機能療法(MFT)、フェイズニングに関する治療・訓練を行っております。

平成21年度の新患患者数は503名で、原因疾患別の内訳は機能性構音障害(20%)が最も多く、頭頸部腫瘍術後(12%)、精神発達遅滞(7%)、閉塞性睡眠時無呼吸症候群(6%)の順で多く当科を受診されました。

摂食・嚥下障害や発音障害に対しては様々な訓練を指導するだけでなく、場合によっては機能改善装置を作製して訓練と併用することも少なくありません。特に発音補助装置に関しては、調整する際に言語聴覚士と歯科医師がお互いの意見を出し合いながら細やかな調整を行っているところが他院にはない当科の特徴といえます。

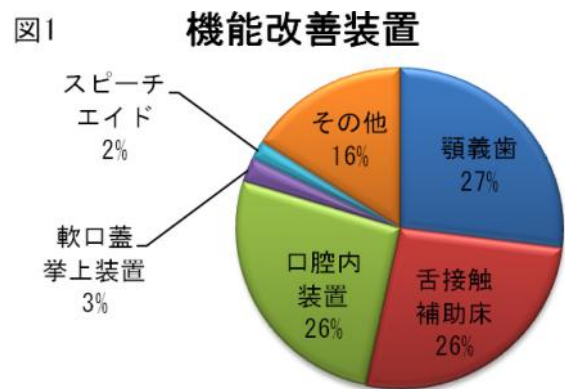
また、摂食・嚥下障害についても訓練だけではなく摂食補助装置を併用したりハビリも行えることは歯科ならではの利点です。昨年度の機能改善装置の製作数は163例で、その内訳は腫瘍術後の顎欠損部を補う顎義歯が27%と最も多く、次いで舌癌術後などで舌挙上能が低下している場合に適応する舌接触補助床が26%、いびきや夜間の無

呼吸を改善するための口腔内装置が26%と多く作製されました(図1)。

現在、口腔リハビリテーション科専任スタッフは歯科医師5名、言語聴覚士2名ですが、口腔衛生学教室からも歯科医師6名が小児の摂食・嚥下障害の治療・訓練を担当しています。

「食べる・飲む・話す・寝る」は人が楽しく生きていく上で基礎となる部分だけに、いつまでも維持できるように、失った時には出来るだけ病前の状態に近づけるように、スタッフ一同丁寧に診察させていただきます。

まずは、ご遠慮なくご相談にいらっしゃってください。
(口腔リハビリテーション科 平野 薫)



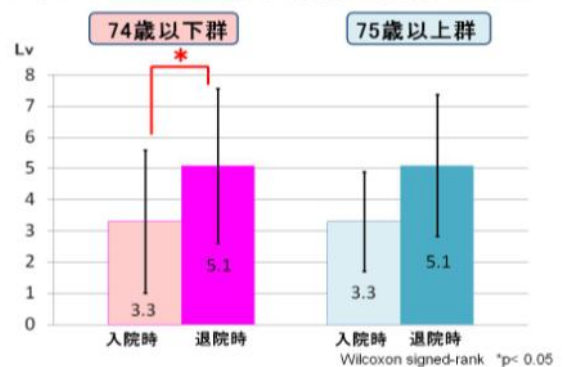
入院での集中リハビリテーションについて

当科では外来診療のほかに、摂食・嚥下障害の患者様に対し入院下での集中リハビリテーションを行っています。リハビリ訓練は歯科医師、言語聴覚士が担当して1日4時間以上行います。また、歯科衛生士による口腔ケアも行います。今回は65歳以上の入院患者様の治療成績を紹介します。

グラフは74歳以下群7名と75歳以上群7名の比較で、どちらも入院期間はおおよそ2週間ですが、短期間に摂食嚥下機能は改善し、摂取カロリー量は増加しております。なお、入院は、総合内科の医師に全身状態を診察して頂いてから決めさせて頂いております。詳細については口腔リハビリテーション外来でお問合せ下さい。

(口腔リハビリテーション科 宇山理紗)

グラフ1 摂食・嚥下機能の改善 (森島らの分類)



グラフ2 1日の摂取カロリー



むし歯が進行すると上あごや下あごの中に膿の袋ができることがあります(図1)。また、むし歯に関係なくあごの骨の中に袋ができることもあります(図2)。これらの袋が大きくなると頬や唇がしびれるなどの障害を生じることがあります。また、これらの袋の中にばい菌が入ることにより歯茎や頬が腫れたりすることもあります(図3)。そのため、あごの骨の中に袋ができた場合はこれらの袋を取り出す手術が必要になりますが、今までは袋の周りに存在するあごの骨を大きく削ることにより袋を取り出していました(図4)。しかし、あごの骨を大きく削るため、袋の近くに存在する歯が大きく動いてしまい抜歯せざるを得ないこともあります。また、あごの形もやせてしまい、入れ歯を入れにくくなったり、インプラントをすることが困難になることもあります。現在、お腹の中や胸の中などの手術に内視鏡が用いられており、小さい

傷で手術をできるため回復が早くなっています。また、ちく膿の治療にも内視鏡が用いられており、鼻から小さな穴を開けることにより、ちく膿が治るようになりました。当科では、可能な限り歯を残すことを目的としていち早く内視鏡を導入し、多くの口腔外科治療に利用しています(図5)。最近では、あごの骨の中に存在する袋を、親知らずを抜いた穴のみから取り出すことも可能となり、袋の近くの歯も残せるようになっていきます(図6)。

このような低侵襲治療を行うことにより、歯が残せるだけでなく手術による腫れも小さくなり、入院期間も短くなっています。

現在は、より低侵襲な治療を提供できるよう内視鏡手術専用の手術器具を開発していますので、今まで以上に多くの歯を残せるようになって考えています。

図1:むし歯からできた膿の袋

上あごの中に存在する膿の袋

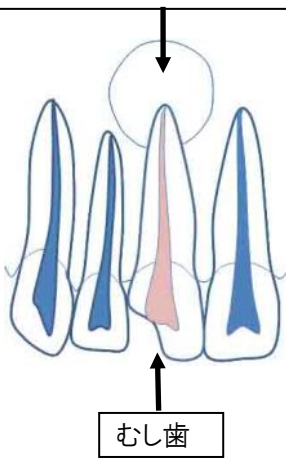


図2:むし歯と関係なくできた袋

下あごに存在する袋

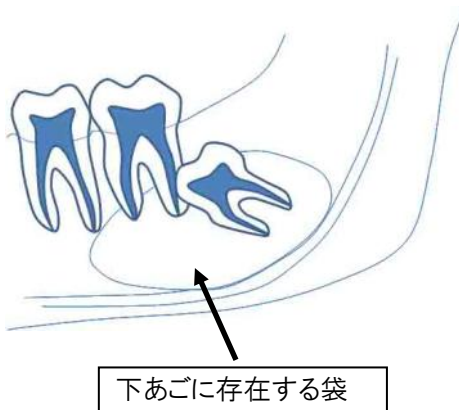


図3:あごの中に存在する袋にばい菌が入り、頬が腫れている



図4:袋を取り出すために歯を抜く必要があった手術



図5:内視鏡を用いた口腔外科手術

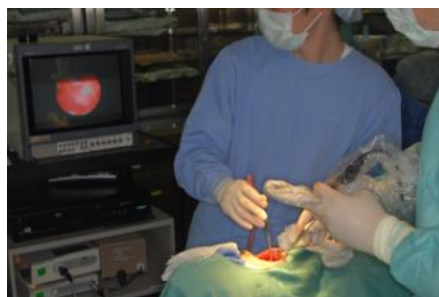


図6:内視鏡を用い、親知らずを抜いた穴から袋を取り去った手術



言語治療室 紹介

「ことば」は人と人とのコミュニケーションには欠かせないものです。私たちは、普段何気なくおしゃべりしていますが、病気や手術をして上手にお話しができなくなったら…毎日の生活にストレスを感じるのではないのでしょうか？発音の問題はどこに相談していいかわからなかったというお声もたくさんいただきます。

昭和大学歯科病院には、口腔リハビリテーション科の中に言語治療室があり、ことばの専門家の言語聴覚士2名と舌や口腔周囲筋に対する機能訓練を専門とする口腔筋機能療法士1名が検査や訓練を担当しています。当院では、言語障害の中でも特に発音の障害を中心に治療を行っています。小さなお子さんからお年寄りまで、年間のべ1700人近くの方が言語訓練を受けていらっしゃいます。

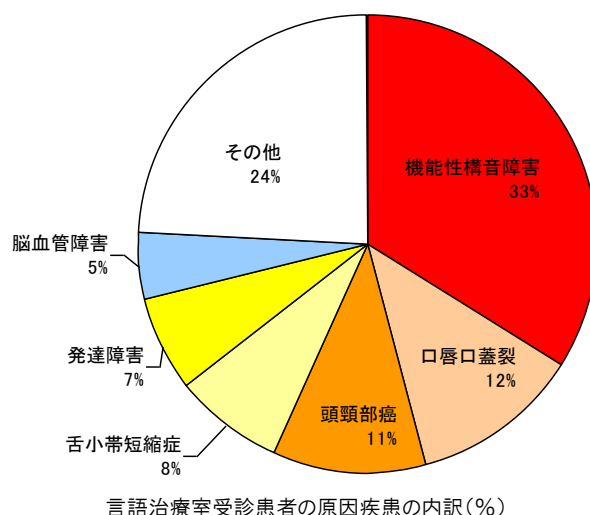
発音の障害とひとくちに言っても、その原因は様々です。口唇口蓋裂や舌癌などでお口の中の手術を受けたり、脳梗塞や脳出血を起こしたために話しづらい、舌の裏のひもが短いため(舌小帯短縮症)に滑舌が悪いなどがあります。一方、明らかな原因がないのに赤ちゃんことばや小さい頃の発音の「クセ」がなおらなかったりする機能性構音障害の方も多く受診されています。

言語訓練は、1回1時間程度の個人訓練で行います。その方の症状に合わせて練習のメニューを組み立てます。無意識に正しい発音ができるようになるには、およそ1年位かかりますが、訓練で一度覚えた正しい発音は決して忘れることはありません。

当院の言語治療室の特徴は、「補綴的発音補助装置」といって手術や脳卒中により動きづらくなった

舌の運動を助けたり、声の鼻漏れを軽減したりする特殊な義歯を、歯科医師と言語聴覚士が連携して作りながら言語治療を行えることです。また、歯並びや咀嚼、嚥下、発音に悪影響を及ぼす指しゃぶりや舌癖などのお口の異常習癖や口腔の病気に伴う運動機能障害に対しては、口腔筋機能療法(MFT)が行われています。

ことばのことで何かお困りの際は、どうぞ口腔リハビリテーション科の言語聴覚士にお声をおかけ下さい。
口腔リハビリテーション科 武井良子



言語聴覚士と筋機能療法士

編集後記

集中豪雨に列島各地が襲われた直後、梅雨明け宣言が出され、夏本番を迎えました。梅雨明け直後の連休は暑さが厳しく、海の日には東京で36.4度の最高気温を記録しました。海の日といえばご存知のように「海の恩恵に感謝するとともに、海洋国家日本の繁栄を願う」祝日として平成七年に制定され、平成十四年までは7月20日でした。

私事で恐縮ですが、この日は誕生日で、学童時は一学期の通信簿をもらう恐怖の日であると同時に、夏休みが始まる日そしてクラスメートから祝福される日と、不安と喜びで一杯の特別な日でした。祝日法の改正で成人の日、敬老の日、体育の日などとともに海の日はいわゆるハッピーマンデーとなり、とくに海の日、体育の日は由来に関係なく単なる連休の二日目になってしまった感があり寂しく思いますが…でもとりあえず7月20日は平日のことが多くなり、職場の皆様からのお祝いは歓迎します。あしからず。(K.T)